

令和4年度第3回庄原市「学びの革新」推進協議会

令和5年2月24日(金) 庄原市田園文化センター

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図ること」を目的に、研修会を行いました。

【講話・交流】「各種学力調査について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 藤井 遥

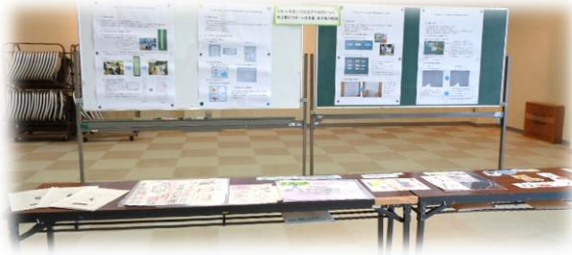


- 全国学力・学習状況調査及び庄原市一斉学力調査結果について、全国平均や目標値との比較等の説明を行った。その後、事前課題をもとに改善に向けた取組等の交流を行った。
- ・グループ交流では、「日常生活との関連」、「納得・実感」、「徹底」等についての取組の大切さを確認した。
- ・調査結果の正答率 30%未満の児童生徒の状況から、学び直しの必要があることを再確認した。小中連携の充実とともに、個のつまずきを明らかにした取組が必要である。

【講話・実践発表・協議】「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業の取組について」

庄原市立口和小学校 教諭 中田 清香

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 片山 博子



庄原市立口和小学校
の実践事例の展示

- 庄原市立口和小学校における「低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業」の1年間の取組を発表した。
- ・「学びの基盤に関する調査」で明らかになった課題に応じた指導や手立てを全職員で考え、授業改善に取り組んだ。個に応じた手立てや授業以外での取組を充実することで、児童の学習意欲が大きく向上した。

【講話・交流】「全ての児童生徒の『主体的な学び』の実現に向けて～『本質的な問い』による授業改善の実践交流・協議～」

広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 小坂 弘尚

北部教育事務所 指導主事 須山 雅弘



- 今年度、各校で取り組んだ「本質的な問い」による授業研究について、単元構想シート、学習指導案等をもとに交流を行った。
- ・児童生徒の「主体的な学び」が実現した姿や、資質・能力が高まった姿を具体的に設定することが大切であり、授業研究等により検証をしていく中で、授業改善を進めていくことが求められる。
- ・自律的・組織的な校内研修体制を確立し、授業や教育課程の「実施 ⇄ 評価・改善」のプロセスで次年度につなげていくことが大切である。

【参加者の感想等】

- ◆学力調査結果の分析から把握した自校の課題について、校内研修等において全教職員で分析結果を共有し、各教科等における改善の取組を考えていきたい。
- ◆口和小学校の取組から、児童の実態をもとに手立てをスモールステップで行い、成功体験を味わわせていく実践を本校でも意識していきたいと感じた。児童生徒の困り感に寄り添いながら授業改善を図りたい。
- ◆口和小学校の実践や他校の実践から、自校でも取り入れる必要のあるものを整理し、活用していきたい。
- ◆本校の課題を整理し、来年度の取組を構想したい。PDCA サイクルの C, A をより重視して、つながりのある研究としたい。